

四日市版コミュニティスクール報告書（令和2年度総括）

四日市市立富洲原中学校

校長 伊藤 和成

1 コミュニティスクール（運営協議会）のねらい

- ① 開かれた学校づくりをめざし、地域・保護者とともに協働できる学校にするために協議会を設置し、様々な視点からの意見や考えを交流し合いながら、地域コミュニティづくりを推進します。
 - ② 教育活動を学校評価に基点を置いたものとします。そのために、これまでの学校関係者評価をより充実させ、改善に努め、保護者や地域の方々の思いを反映した学校づくりを推進します。
 - ③ 学習支援をはじめとして、様々な教育活動に保護者や地域の方々との活動を継続・発展させ、「地域とともにつくる学校」の推進を図ります。
- ※ これまでの「学びの一体化」の成果を活かしつつ、小中一体となって保幼もまきこみながら、地域とともに子どもを育むことを目指します。

2 コミュニティスクール（運営協議会）の実践について

(1) 教育活動の実践事例

(1) 教育活動の実践事例

①地域に学び、地域を愛し、地域に貢献する生徒の育成

クリーン大作戦（地域清掃）

クリーン大作戦は「校区をきれいにすることで、地域を大切にする心やボランティア精神を養う。」「生徒が主体的に取り組むことにより、自己責任感を育てる。」「生徒・教師がともに校区に出て行くことで、地域を知り、つながりを深める。」ことを目的に毎年、**全校生徒が参加**し実施しています。本年度、公共施設は、幼稚園、保育園、北部児童館・地区市民センターの清掃を行いました。地域の皆様にたいへん良い評価をいただき、生徒たちの自尊感情が高まりました。



地区総合防災訓練

地区総合防災訓練は、地域住民が一体となって行う総合防災訓練で、「自助」「共助」「公助」の理念の基に毎年取り組まれています。多くの住民が自主防災の意識を高め、参加者同士の交流によって人の輪が広がり、地区全体の自主防災体制が機能し、防災・減災に役立つことを目的に実施しています。

今年はコロナ禍ということもあり、生徒の参加は自肅し小中学校の管理職4名が学校の代表として参加しました。内容は中学校での避難所開設訓練で、新型コロナに感染した方が避難してきた場合や、体調不良者が避難してきた場合も想定しながらそれぞれの役割を確認しました。また、大雨や津波等で体育館が浸水した場合の避難場所や中学生の役割についても確認することができました。地区総合防災訓練の理念である「自助」「共助」「公助」を中学生が目指す素晴らしい取り組みであるとの評価を多くの方々からいただいていますので、来年度以降は再開していく予定です。



②地域人材、外部講師、保護者を活用した教育活動等

環境教育・図書館ボランティア・合唱指導・職業講話・本と音楽の会

☆環境教育

本年度は2年生は「環境保全」の学習として、ウミガメネットワーク会長の米川様をゲストティーチャーとしてお招きし、伊勢湾岸でもウミガメが産卵をしていることを学びました。また、最近の地球温暖化や環境破壊の影響で、ウミガメの産卵回数や卵から孵化への確立が大きく下がっていることもわかりました。さらに、回遊中のウミガメがビニール袋等のゴミを食べて死んでしまうことが増えてきたこともわかりました。生徒にとっては、他人事ではなく自分たちにも何ができるのかを考える機会となりました。



☆図書館ボランティア

毎年保護者にボランティアを募り「読書活動推進教育」に協力をしていただいています。今年は、図書館司書と一緒に本の装丁作業をしていただきました。たくさんの本が装丁され、生徒たちの読書活動推進に大いに貢献していただいています。



☆合唱指導

本年も「文化芸術による子どもの育成事業」で、ソプラノ歌手の馬場浩子先生とピアニストの星合智美先生をお招きし、「ミニコンサート」をしていただきました。新型コロナウイルス感染症の飛沫感染防止のため、マスクをして歌っていただきましたが、その素晴らしい歌声に生徒たちは感動をしていました。本物に触れることの大切さをしみじみと感じました。



☆職業講話

今年度、2年生はいろいろな職業の方をお招きして「プロに聴いてみよう！学習会」を行いました。はじめに各職業の方を紹介し、それから各ブースに分かれて「働くために必要なこと」や「今、中学生のうちにやっておくべきこと」等の話をそれぞれの立場から話していただきました。また、講話のあとには質疑応答タイムを設け、さらに知識を増やすことができました。



☆本と音楽の会

1年生の国語科では、野呂様ご夫妻をお招きし「本と音楽の会」を開催しました。野呂様ご夫妻には二作の絵本を読んでいただきました。読むときの声の強弱や抑揚、また尺八やピアノを効果音として用いることで、生徒たちは絵本の世界に引き込まれていきました。心が安らぐひとときとなりました。



(2)「三錨CS運営協議会」の取り組みによる効果

今年度も「四日市版コミュニティスクール」の委託を受け、地域・家庭・学校が一体となった学校づくりをより一層推進してきました。コロナ禍のために多くの地域行事や学校行事が中止や規模縮小になったため、地域・保護者の方に参観をしていただく機会は減りましたが、できる範囲で地域とともにある学校という認識を深めることができました。

10月にはクリーン大作戦として地域の公共施設の清掃活動を行い、地域の方に喜んでいただく機会を持てました。小中合わせて、年間6回の三錨CS運営協議会を開催し、授業等で生徒たちの様子を参観していただきました。そして、その様子から、様々な角度からのご意見をいただき、教育活動に反映することができました。

三錨CS運営協議会等でいただいた意見を教師から伝えたりすることで、様々な方に認められているということを実感でき、生徒の自己有用感や自信につながっている。また、小中合同で行っていくことで地域の子どもたちを幼少期からどう育てていくかという視点で意見交換を行い、共通の教育課題を持つことができました。



3 今後に向けて

三錨CS運営協議会において、次のようなご意見をいただきました。

◆「楽しい学校生活」

小規模校の特性から、日々の人間関係が影響してくる。高学年と低学年では感じ方に、かなり差が出てくるので、日ごろから教師との丁寧な関わりを目指し、安心して学校生活をつくっていただきたい。

◆「学力向上」

学力向上を目指し、安心して学べる環境づくりを目指す。授業で自分の考えを自由に話したり、友だちの意見を聴けることには肯定的回答が多かったが、自分の意見やわからないことについての発表が苦手である、という児童がいる。コロナ禍で、グループ活動ができにくかったことによる影響もあるが、「聴く」姿勢を大切にして、困っていることを表現できることを今後の共通課題にしていく。

◆「読書活動」

貸し出し冊数は増加傾向にあるが、さらに読書に親しむ環境づくりを目指していく。例えば、図書室内の掲示物や月ごとのテーマ本の陳列等、児童・生徒が立ち寄りたくなる環境づくりから始める。また、時代に応じた児童・生徒に人気のある本を購入し活字に親しむ機会を増やす。さらに、図書館司書を効果的に活用し「絵本の読み聞かせ」や自分の好きな本を選ぶ「マイブック」の取り組みも継続していく。

保護者が本を読まない家庭の子は、読書をしない傾向にある。親がスマホをしていると、子どももスマホをしている。地区市民センターにも図書室があるので、小・中学校と連携をして、子どもたちに人気のある本を購入していく。

幼稚園では、毎週貸し出しをしている。家で親子で絵本を読んでほしいが、最近、親が忙しいのか子どものために本を読んであげないことが多い。兄弟に読んでもらっていることが多い。絵を保護者も一緒に見てほしい。大人は本から字を覚えてほしいと思ってしまうが、大人も絵から感じてほしい。どんどん啓発していきたい。

◆「いじめや暴力のない、楽しい学校づくり」

学校生活を楽しく送れていると思いますか？という問いに関連してるが、肯定的回答が小・中ともほぼ9割の肯定的回答となっている。今年度はコロナ禍で、子どもたちには我慢を強いる状況がたくさんあったが、そんな中でも修学旅行には行けたり、日々の友だちや教師との関係から「学校生活は楽しい」と肯定的に思える子供たちが多い。そこで、子どもたちの生活を、日々丁寧にみていき、中学年から高学年という精神面が変わる時期はとくにSCを活用して、教育相談を行っていく。

さらに、人権教育や道徳で「SNSによる誹謗中傷の禁止」等、定期的に学習を行い「人権を尊重する姿勢」や「いじめや暴力のない学校」等、こういう回答を大切にしていきたい。また、地域や保護者には、学校だよりやHPを通じて学校の様子を発信していく。

◆新しい生活様式

コロナ禍で運動制限もあるが、手洗い・マスク、安全対策を万全に行っている。学

校は安心であると感じさせるためにも、日々の学校生活の人間関係を丁寧に見ていきたい。また、縮小された学校行事の中でも、生徒が主体的にアイデアを出し運営を任せることで、一定の充足感を感じている。これからも、中学校で行った「いじめ撲滅・ピンクシャツデーの取り組み」等を企画させ、主体的な生徒の育成を目指していく。

全体的に学校行事の変更や中止があったものの、やれることとやれないことを精査して頑張っている、という評価をいただいた。

終わりに…

- ・ 今後も、四日市版コミュニティスクール推進に向けての取り組みを検討し、様々な視点からの意見や考えを交流し合いながら、地域コミュニティづくりを推進していきます。
- ・ コミュニティスクール推進のために、保護者の方々だけでなく地域の方々にも、様々な情報を適切に発信していく必要があります。学校ホームページでの情報発信をはじめ、地域に情報発信をしていきます。
- ・ これからも、地域の人・場所を活用させていただきながら、目指す生徒像に向かって、地域とともに取り組んでいきたいと考えています。

令和2年度四日市版コミュニティスクール活動報告

四日市市立富洲原中学校

委員長 伊藤 敏彦

校長 伊藤 和成

月	協議会の開催	活 動 内 容
4		
5	第1回運営協議会 (富洲原中学校) →中止	I 校長挨拶及び委嘱状手交→郵送 II 議事→書面で確認 (1) 委員長・副委員長の互選 (2) 「学校づくりビジョン」について
6	第2回運営協議会 (富洲原小学校)	I 授業参観 (小学校) II 小中学校の現状報告 III 意見交流・情報交換
7	第3回運営協議会 (富洲原中学校)	I 授業参観 (中学校) II 小中学校の現状報告 III 意見交流・情報交換
8		
9		
10	第4回運営協議会 (富洲原小学校)	I 小中学校の現状報告 II 上半期学校教育活動の総括 II 意見交流・情報交換
11	第5回運営協議会 (富洲原小学校)	I 小学校巡回参観 II 小中学校の現状報告 III 意見交流・情報交換
12		
1		
2	第6回運営協議会 (富洲原中学校)	I 報告・協議 (1) 「教育活動に関するアンケート」等の報告 (2) 「学校関係者評価」について (3) 意見交流・情報交換
3		